

令和2年度 学校評価表

64 飯田風越高等学校

【評価の基準】 A:達成できている B:概ね達成できている C:あまり達成できていない D:全く達成できていない

学校教育目標	重点目標 (中・長期的目標)	今年度の重点目標	総合評価					
			A	B	C	D	改善策・向上策	
豊かな人間性と高い教養を持ち、他者と協働し、主体的に将来を切り拓く力と、地域・社会を牽引する資質を持った人物を育成する。	◇保護者・地域との連携を深め、信頼を得る学校づくりを行う。 ◇社会の形成者として必要な規範意識の涵養とマナーの向上及び協働意識の育成を図る。 ◇生徒一人ひとりの興味・関心、能力・特性に応じた適切な指導・支援を行うことにより、豊かな人間性を養い、社会を担う人材を育てる。	◇いじめ・体罰のない学校づくりを推進する。特にスマホ、インターネットの利用にはその危険性を理解させ、犯罪被害や問題行動につながらないように未然に防止する。 ◇地域・社会に対し、広い視野を持ち、探究的な学びを通して、自ら課題を発見し、仲間と協働して解決をはかる力を養う。 ◇国際教育プログラムや海外進学(留学)を視野に入れた新しい教育課程の編成を促進する。	<p>コロナ禍における教育活動であったが、生徒は落ち着いて授業に参加した。部活動は公式大会の中止や代替大会になり、十分な練習もできず、不完全な形で終了した部分もあった。学校再開後は、地域の方、同窓会、PTA等のご協力やご支援もあり、充実した学校生活が送れている。各係が担当ごとに行った自己評価は下表の通りである。概ね所期の目標に到達していると考えられる一方課題もある。</p> <p>本年度はコロナ禍による臨時休業もあり、ICT教育の充実が痛感された。1、2年生は自宅でのオンライン学習を行うことができた。情報担当や若手の教員が中心となり、ICTを使った授業実践ができつつあり、ベテラン職員への刺激にもなっている。次年度以降もこのような取り組みを継続したい。</p> <p>本年度は県の「未来の学校」構築事業の指定校として活動し、教頭やカリキュラムコーディネータを中心に校内研修を充実することができた。来年度もより具体的に教育効果が高まる対応策を考え、工夫を重ねていきたい。</p>					
			成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
			・生徒の規範に対する知識と意識が低い離れていると思われる行動が見られる。いじめ問題、インターネットの使用法に対する啓発の継続が必要である。		○			注意喚起にだけに留まらない継続的な取り組みを進めたい。次年度は、スマホの使用の仕方や未然防止等についての研修会も設定したい。
			・探究的な学びの必要性が言われるなか、1・2年生における探究的な学習では、普通科の「社会と情報」及び国際教養科「課題研究」の発表会を12月から3月にかけて行った。			○		・授業におけるICT機器の利用の必要性が高まっているので更なる内容充実を図りたい。生徒の思考力や主体性を重視した授業展開ができるよう、校内研修や外部講師による講演を実施していきたい。
			・国際的な教育プログラムを研究する「未来の学校」構築事業では、新教育課程における学校設定科目設置に方向性ができ、留学や評価等のWGを立ち上げ、それぞれ活動することができた。		○			・次年度は、新教育課程を固めるとともに、国際教育プログラム関係の研修会に複数人の職員が参加し、その成果を全職員でシェアしていきたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育	教育課程	生徒・保護者および地域の期待・要望を勘案し、風越高校の特色を生かせる教育課程の検討を進め、提示していく。	次年度の文理分けや講座選択において、生徒の進路や興味・関心に応じたコース等の提示ができたか。 2022年度入学生から適用される新学習指導要領に対応した教育課程の編成を進めることができたか。	各学年と連携し、生徒や学年の意向を踏まえた講座編成を行った。また、各担任が丁寧な面談をする中で生徒個々の進路希望を考慮しつつ、講座選択をさせることができた。				○	来年度は1クラス減となり、教員定数も減るため、講座編成については難しさも予想されるが、生徒の進路希望にかなうような編成を考えたい。
		学力の向上を図るために学習習慣の確立に努める。また、総合的な探究の時間(Fの学び)の在り方について検討していく。	家庭学習の充実を図ることができたか。 生徒の進路・ニーズに合った補習授業(土曜・平日)はできたか。 高大接続改革の研究をふまえて、「Fの学び」について検討、計画をすることができたか。	一斉休校中の学習課題や、オンライン授業の実施など、新型コロナウイルス拡大の中で生徒の学習機会を保障した。 休校明けは進路や学習への焦りがあつたのか、特別学習講座への出席率は高かった。 探究的な学びの班作りを工夫することで、教員が生徒を支援しやすいように改善できた。			○		予期せぬ事態に備え、オンライン授業への切り替えや学習課題の検討などをスムーズに行える体制づくりが必要。
	学習指導	進路希望に合わせた情報の提供と指導を行う。	生徒の意識の高揚を図りながら進路希望に沿った指導ができたか。	新型コロナウイルス拡大の影響もあって全国的に安全志向が強まり、総合型(AO)、推薦で早めに進路決定をする傾向が見られるなか、強気の出願をした者にはチャンスの年でもあった。入れる学校だけでなく、入りたい学校へ積極的に出願するよう指導した。				○	学校説明会等をオンラインで行う傾向は今後も強まるが、正確な情報を得られるよう支援していく必要がある。卒業生の受験報告の活用、受験情報誌のクラス配布、志望に沿った小論文指導や面接指導を通じて進路意識の高揚を図る。
		職員間の進路情報、指導法の共有を図る。	模試情報の迅速な共有とオンラインでの情報活用技術向上の取り組みができたか。	オンライン模試情報利用の職員講習会を予定したが、実施できなかった。3学年会の企画で共通テストの判定システム利用に関する講習会を実施した。				○	今年度実施できなかったBENESSE HIGHSCHOOL ONLINEとFINEまたは、KEI-NAVIの職員講習会を企画し、模試結果や、進路情報の有効活用を図る予定である。
		キャリア教育の課題を具現化した進路指導を行う。	「Fの学び」等を通して、進路意識を高揚させることができたか。	感染拡大に伴う休校等で予定していたいくつかの進路行事はできなかったが、1学年主体の進路学習特別講座や3学年対象の進路説明などを遠隔形式で行った。				○	希望の多い医療系の職業に関する体験学習等を、これまで同様積極的に取り組んでいく。大学等卒業後のUターン就職の参考にもなるよう地域企業の紹介なども関係機関や企業と協力して行う。
	生徒指導	社会規範・交通規則・校則を守る意識を高め、いじめのない自律的な学校生活が送れるよう支援・指導を行う。	いじめ案件などにすぐに対応できたか。 規範意識が高められたか。特にSNSの危険性について理解が深まったか。	・相互の立場を聞き取り、適切に指導できた。 ・SNSでの事案が多いため、SNSの危険性の指導がもっと必要だと考える。 ・インターネットの危険性についての指導は各学年実施できた。 ・SNSでの事案が多く起きたのでさらなる指導と生徒の知識が必要だと考える。				○	・アンケートなどに出てこない件もつかむような方法を考えたい。 ・SNSについての意識を高める講演などを実施したい。
地域・家庭との連携をはかり、安心・安全な環境を維持し向上させる。		地域・家庭との信頼関係を深めることができたか。	・些細なことも家庭への連絡を怠りなかった。 ・家庭と学校との連携はうまくいったと考える。				○	コロナ禍のなかで連携をとるのが難しくかった。何らかの方法を考えたい。	

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育	教育相談	教育体制の充実を図る。	職員間で共通認識を持ち、適切な支援ができたか。	共通認識を持って支援するために、職員研修を実施している。今年度は職員会にて実施した。生徒情報の共有の方法を改善していきたい。		○			職員間の情報交換を密にし、心配な生徒の対応を早めに行えるようにしたい。今年度から導入した生徒支援シート活用の周知を図りたい。
			関係機関の活用、連携ができたか。	SCの活用は昨年度よりも増やして頂いた。また場合に依りてSSWも活用したことにより、不登校や家庭に問題を抱える生徒が安定してきている。	○				関係機関について、生徒、保護者への周知をさらにすすめて、支援の充実を図りたい。
		自治活動としての支援をはかる。	委員会、クラブ、風越祭など充実して行えたか。	制約の多い中で、できる範囲での文化祭を行うことができた。クラブ活動や委員会活動は制限があり充分には行えなかった。		○			今後、今までのような行事等が行えなくても、形を変えながら臨機応変に行っていく。
	生徒会	地域に根ざした活動を目指す。	ボランティア活動などを中心に、地域に出て活動させることができたか。	8月からのボランティアに、延べ40名の生徒が参加した。カンボジアへの物資は少ないながらも送ることができた。		○			ボランティアの募集自体が少なくなってきたが、多くの生徒が希望してくれた。カンボジア物資は継続していく。
		マナー、モラルの向上をはかる。	あいさつや身だしなみ、環境美化などの啓発を行えたか。	本部役員や委員長が年度当初に挨拶運動、年末に交通安全の呼びかけを行った。		○			本部役員を中心に、マナーやモラルについて考え、啓発活動を行っていく。
		自己の健康課題を把握し、健康の保持増進・感染症対策に主体的に取り組む力を育てる。	疾病の早期発見に努め、早期治療につなげることができた。また、健康上管理を必要とする生徒が学校生活をスムーズに送れるようサポートできたか。	新型コロナウイルスへの感染拡大防止の観点からも、毎朝の体調チェックシステムを作成した。やっつけていくことで、生徒自身の習慣としても定着し、生徒全員の体調管理・把握に役立った。	○				やっつけていくにつれて、入力が適当になってきたり、体調があまり優れていなくても登校するような生徒が増えてきている。呼びかけ等、入力の徹底、登校の基準などの説明を強化していく。
	保健		夏場の熱中症の予防等、季節に合わせた体調管理ができたか。	昨年、熱中症関連のニュースが多くあり職員の意識も高くあった。授業中の水分補給を促したり、体育館施設に気温計を設置するなど、有効な活動ができた。		○			熱中症対策に関して、エアコン設置がされていない研究室もあり、改善が必要。寒さ対策に関しては、ストーブだけでなくエアコンの併用も検討していく。
			年間を通して感染症の予防に努め、校内での感染症の蔓延を最小限にとどめる取り組みができたか。	新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐための対策をもう少し取るべきであった。			○		あらためて感染症対策の徹底をはかる。
		図書館の利用促進をいっそう図るとともに、高大接続に向けた資料の拡充を目指す。	図書館の情報発信・資料の拡充とともに、資料閲覧、調査、貸出が円滑に行えたか。	授業や進路実現のための資料提供がスムーズにできた。また、タブレットの配置により、いろいろな活動をオンラインで実施することができた。		○			図書館でできることを発信し利用を促していきたい。特に図書館は図書だけではなく、「情報」を扱っていることを周知し、情報リテラシーを高めることにも力を入れていきたい。
	視聴覚	視聴覚教育の充実を図る。	芸術鑑賞が生徒たちの情操を豊かにするものであったか。	本年度は新型感染症拡大防止のため実施せず。来年度の開催に向けて日程や演目の変更・調整を行った。		○			新型感染症対策をしたうえでの開催を検討する。
		人権平和	基本的な人権を享有し、人間の尊厳を尊重し、差別・偏見・いじめを容認しない。平和や真実を希求する人格を育成し、人権尊重の実践を目指す。	平和人権学習や修学旅行体験を通じて、戦争と平和、差別や不当な人権侵害の事例について学び、人権感覚を養い、磨くことができたか。	平和人権学習として全校で映画鑑賞を実施した。人を思いやること、困難な状況下にあっても社会や他人に不満をもつことなく自分の置かれた立場を理解し、将来に希望を持ち、努力することの大切さを確認したとの感想が多かったのは一つの成果であったと思われる。		○		コロナ禍の影響で修学旅行が実施できず、平和人権学習の機会が失われたのは残念なことであり、事態の改善を強く望みたい。
				いじめや命の尊さについて学び、人権意識の向上を図ることができたか。	学年では、自分を大切に、他者を認めるというテーマでLGBTについての講演会を実施した。人権問題について生徒に考えさせることができた。		○		
学校運営	保護者・地域との連携	保護者や地域との連携・交流に努めるとともに、積極的に情報を発信し、より一層開かれた学校づくりを進める。	WEBページの更新や刷新、広報誌の発行等を定期的に行い、学校情報を積極的に発信できたか。	WEBページは、特に新型コロナウイルス情報の発信に有効に活用することができた。広報誌はここ2年発行できていないが、WEBページによる情報発信で十分であると思われる。		○		WEBページは同窓会のホームページと合わせて、来年度リニューアルする予定である。よりよい情報発信ができるように内容も工夫していきたい。	
		PTA活動や学校評議員会の意見を学校の教育活動に生かすことができたか。	コロナ禍の中で、PTA総会や地区PTAを開催することはできなかったが、年度当初のPTA関係審議は、書面のやりとりでそれぞれの審議事項について、賛否のご意見をいただいた。		○			地区PTAに関しては、担当になった保護者の負担が大きいこと、教職員の働き方改革など意見が上がっている。さまざまな形で、保護者の方の意見が聞けるようなシステム作りを目指していきたい。	